

<講演要旨> ※無断転載を禁じます

平成 25 年 7 月 27 日 (土)

PGI Club 定例研修会

歯周病治療の勘どころ

その2 咬合性外傷

伊藤 公一

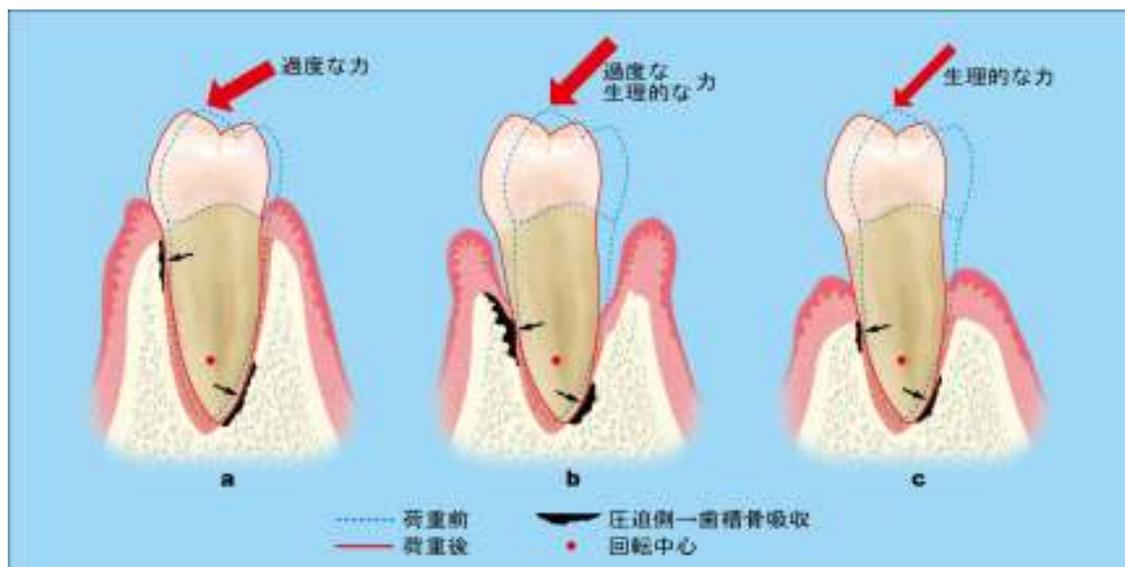
要旨：歯周組織の適応能を超えた力が歯周組織に加わると咬合性外傷が起こります。歯肉炎や歯周炎は、プラーク中の細菌による感染症で、歯肉に発赤、腫脹、ポケット形成、歯の動揺などの徴候があることから診断が比較的容易にできます。しかし、咬合性外傷は、歯肉を除いたセメント質、歯根膜および歯槽骨の深部歯周組織に起こるので診断が難しいのです。とりわけ、歯周炎と合併するとより歯周組織破壊が促進されることがわかっています。日常臨床では、歯周炎と咬合性外傷とが合併している症例も少なくないことも周知の事実です。したがって、炎症と力のコントロールが歯周治療を成功させるうえで大切になります。それでは、実際の臨床においてどのような咬合性外傷があるのか？その治療はどのようにしたら良いのかなどについて解説する予定です。

<図>咬合性外傷の分類：

a 一次性咬合性外傷

b 複合性咬合性外傷

c 二次性咬合性外傷



※「その1」は、平成 25 年 6 月 15 日 (土) 実施